

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520801

研究課題名(和文) 島原の乱と近世的軍制の基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental study of the Shimabara Rebellion and early-modern military system

研究代表者

山口 和夫 (YAMAGUCHI, Kazuo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00239881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：寛永14年(1637)に発生し、翌15年(1638)に鎮圧された島原の乱(島原天草一揆)について、幕藩領主の軍勢に関わる基礎的事実の解明を期した。その際、参陣実人員と戦争遂行システムの把握、諸大名家中等の内実と統制の解明、牢人たちの参陣とその後の帰趨の事例発掘、の三つを主目的に幕政史料や大名家史料等の調査と実証的な研究を進めた。参陣人員については、諸要素に区分けし、従来の数値を再評価した。また幕藩間の回路として機能した諸階層の人物史情報を蓄積・整理した。幕府による軍律違反者処分の過程を検証した。参陣牢人の事例を集積・整理した。

研究成果の概要(英文)：We expected the elucidation of the basic fact about army of the curtain feudal clan feudal lord about the Shimabaranoran, researched the number of the people who fought the battle, accumulated the information of the participant, and researched the example of the masterless samurai who came to the front.

研究分野：日本近世史

キーワード：近世的軍制 島原の乱 幕藩関係 牢人 参陣 戦功 回路・人脈 史料

1. 研究開始当初の背景

寛永14年(1637)に発生し、翌15年(1638)に鎮圧された島原の乱(島原天草一揆)に関しては、蜂起し原城に籠城して殲滅された一揆勢を対象に豊富な研究蓄積があり、一揆の内実の検証が進められ、宗教戦争であったのか、経済闘争であったのかが議論されている(神田千里氏『島原の乱』2005年、大橋幸泰氏『検証 島原天草一揆』2008年など)。

また、関わった人数も、その後に及ぼした影響も大きな事件であるため、各種通史・地方史・自治体史・幕政史・藩政史等で広く言及・叙述されてきたが、参陣人数については、事件の百年以上後に編まれた「徳川実紀」の数字が援用されることが多い。

近世初期の政治史・軍制史の研究が進むなかで、幕府から参陣大名諸家への兵糧米支給のための数値(理論値)と実人員数とは相違することが、あらためて問題提起され(高木昭作氏「近世の軍勢」1994年)再検討が必要な状況にあった。

さらにこの間、各地で史料を守り伝えてきた関係機関・関係者等の努力により、当該期の幕政史料・大名家史料の整理や発掘・公開や史料情報の発信が進み、検証可能な条件も整えられてきた。

本研究では、幕政史料・大名家史料を研究する研究者を組織し、原城を攻略し一揆を鎮圧した幕藩領主の軍勢を対象として、その構成・統制・実像=新たな史実を、豊富に伝存する関連史料の調査・研究により実証的に解明することを期した。

2. 研究の目的

次の三つを主目的とした。

(1)参戦実人員と戦争遂行システムの把握、

幕府が動員した諸大名の軍勢のみならず、各地から実際に参陣・参陣した者たちを加味して追究した。

また物資補給・情報連絡等を担った諸要素や江戸幕府・大名(幕藩)間や大名家相互、大名家中の回路・人脈の解明・把握にも留意することとした。

(2)幕府や大名家中での内実と統制の解明、

大名当主、その血族、家老等以下の家中の構成(内実・関係性)軍律・規律と主体的に戦機を捉え判断する行動との背反等の諸相・問題にも留意した。

(3)牢人たちの参陣とその後の帰趨事例の発掘、広範な事例の把握・集積・整理に努めた。

3. 研究の方法

本研究の進め方の基本は、

(1)先行研究や各種史料集・図録等に目配りしながら、近年までの島原の乱および近世軍制に関わる成果と新規発見・紹介が続く史料情報とを集約すること、

(2)先行研究の成果を継承・発展させるため、各地に伝存する史料を調査し、公刊史料等の再評価も加味し、新たな視角による史実の発掘をすすめること、

(3)研究代表者・研究分担者・研究協力者が、上記(1)・(2)の作業を行いながら情報を共有し、研究をすすめること、

以上の三点である。

具体的には、主要な学術雑誌・図書・図録・史料集(鶴田倉造編『原史料で綴る天草島原の乱』1994年ほか)等から先行研究と史料情報とを抽出・蓄積・整理するとともに、各年次に史料調査を立案・実施し、収集史料を分析・評価し、史料情報・論点を共有していった。

史料・文献の主な調査先を次に摘記する。

仙台市博物館(天草四郎陣中旗等)

茨城県立図書館(土井家中系譜史料)

国立公文書館(幕政史料・各種分限帳等)

宮内庁書陵部(近世初期文書・記録)

永青文庫(細川家史料)

国文学研究資料館(徳島蜂須賀家文書・

出雲松江松平家中系譜史料)

岡崎市美術博物館(本多家関係史料)

みかわ武士のやかた家康館(本多家中系

譜史料)

金沢市立玉川図書館近世史料館(前田家

中系譜史料)

京都府立総合資料館(稲葉家関係史料・

古久保家文書等)

京都文化博物館(細川家史料)

京都市歴史資料館(洛中洛外地域史料)

京都橘大学(近世初期史料)

大阪城天守閣(牢人・合戦関係史料等)

岡山県立図書館(郷土資料)

新見市立新見図書館(「森家先代実録」新

見本)

鳥取県立図書館(地域資料)

景福寺(金石文)

島原本光寺(深溝松平家文書・田島家文

書)

長崎歴史文化博物館(収集史料)

佐賀県立図書館(鍋島家文庫等)

佐賀県公文書館(収集史料)

熊本大学附属図書館(細川家史料)

熊本市歴史文書資料室(新熊本市史編纂

事業収集史料)

熊本市北岡自然公園(妙解寺跡等所在金

石文)

上記のなかでは、戦死者の墓碑等の金石文の調査や佐賀藩派兵200年・250年関連行事史料の調査も試行し、後世への記憶の問題も視野に入れた。

研究の過程で、幕藩関係の回路となる人物

(幕府年寄や諸大名の家老・家臣、上方・九州等在住商人・牢人・僧侶) 参陣履歴を持つ人物(大名家臣・牢人)、論功行賞・賞罰についての史料を調査・収集し、人物史情報を整理・蓄積した。

あわせて、鎮圧軍中最大級の兵力を担った熊本藩主細川忠利が戦後諸方向きに発した書状のテキストデータや、同人書状中にみられる人名についての人物史データベースを作成・整備した。

なお、最終年度末(2015年3月)にも九州の出張先で、所蔵者・関係者の好意で、個人所蔵新出史料の概要を調査する機会に恵まれ、原攻城戦従軍者が後年まで大名家中の戦功認定に関わり主張を重ね、当局者や当事者と交わした文書類に接することができ、新たな知見を得た。

本研究が課題とした島原の乱に関する史料は、数多く作成され、今も様々な形で各地に伝来しており、さらなる調査の余地を残していることを付記しておく。

4. 研究成果

(1) 参陣実人員の把握について、

大名諸家の軍勢、家老指揮部隊の派兵、諸大名等が派した使者衆の参陣事例、牢人衆の参陣事例という諸要素に区分けし、実例把握に努めた。研究分担者木村は、再検討の成果を研究会で発表するとともに、本課題と密接に関連する共同研究の報告書に論文を寄稿・公表した(同「島原の乱と軍事動員」小宮木代良編『十七世紀前半西南諸藩における大規模軍事動員』東京大学史料編纂所研究成果報告2012-6、2013年、p39-53)。

(2) 幕府や大名家中での内実と統制の解明について、

大名細川忠利家勢を研究代表者山口が分析し、恩賞を抑制せざるを得なかった実情を論じた(同「原城攻めに参陣した牢人たち」2014年)。

江戸幕府による佐賀藩主鍋島勝茂・軍監榊原職直・同松平行隆等処分過程・理由を分析し、戦後処理期の細川忠利書状を公刊した史料集『大日本近世史料 細川家史料』二十三・二十四(2012年、2014年)の刊行物紹介稿で解説した(『東京大学史料編纂所報』47・49、2012年・2014年)。

(3) 幕藩関係の回路となる人物の人物史情報を調査・整理・蓄積した。戦後処理期の細川忠利書状中に見られる人物については、『大日本近世史料 細川家史料』二十三・二十四(2012年、2014年)の「人名一覧」に新出分の参陣者等の略伝を掲載した。また、幕藩間の回路・取次として機能した幕府土井利勝についての論稿を発表した(山口「細川忠利から土井利勝への屏風贈答」2015年)。

(4) 牢人たちの参陣とその後の帰趨事例の発掘・集積に努め、具体的な人物群像を紹介・提示した(山口「原城攻めに参陣した牢人た

ち」2014年)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

山口和夫「細川忠利から土井利勝への屏風贈答」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』69、2015年、p4-7 査読無

林晃弘「寺社修造にみる関ヶ原合戦後の豊臣家と家康」『日本歴史』799、2014年、p20-36 査読有

林晃弘「文献案内 熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編』」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』64、2014年、p26 査読無

木村直樹「近世初期上方の政治情報と豊賢齋」『東京大学日本史学研究室紀要別冊 近世社会史論叢』2013年、p329-336 査読無

木村直樹「オランダ人の日本語」『本郷』98、2012年、p22-24 査読無

〔学会発表〕(計1件)

木村直樹「島原の乱「幕府軍十二万人」の再検討」東京大学史料編纂所第269回研究発表会、2013年3月27日、東京大学(東京都・文京区)

〔図書〕(計6件)

佐賀県立図書館編・発行『佐賀県近世史料』第5編第2巻、2015年、p870

小宮木代良「『白帆注進外国船出入注進』解題」p1-40

東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく』中央公論新社、2014年、p240

小宮木代良「歴史資料と言説」p44-48

山口和夫「原城攻めに参陣した牢人たち」p162-166

③島園進ほか編『シリーズ日本人と宗教1 將軍と天皇』春秋社、2014年、p267

山口和夫「神仏習合と天皇の祭祀」p25-53

木村直樹『通訳たちの幕末維新』吉川弘文館、2012年、p208

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

島原の乱と近世的軍制の基礎的研究

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/collaboration/kaiken/23520801.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

山口 和夫 (YAMAGUCHI Kazuo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00239881

(2)研究分担者

小宮 木代良 (KOMIYA Kiyora)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：90186809

(2013・2014年度)

木村 直樹 (KIMURA Naoki)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：40323662

(2011・2012年度)

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

林 晃弘 (HAYASHI Akihiro)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：10719272

(2013・2014年度)